

シリア国の自然と農業（新シリーズ）

第1回：変化に富んだ気候・風土

シリア国は中近東アラブ諸国の中では、最も北の北緯 32-37 度、東経 35-42 度に位置する。面積は 18.5 万平方キロと日本の半分であるが、地形及び気象の変化に極めて富んだ国である。地中海沿岸地域は 180km に及ぶ海岸線とそれに平行する山脈に挟まれた、幅 20-30km の海岸平野と丘陵地（地中海沿岸地域）で、温暖な気候に恵まれて柑橘類や温室野菜の栽培が盛んである。南北に伸びる山脈地域（地中海沿い山脈地域）は、急峻な地形でダマスカスの南西にあるジャバル・シェイクは標高 2,800m 以上に達する。冬期には積雪もあり、年間 1,000mm 以上の降水に恵まれて、山間にはリンゴの産地が点在する。山脈の東側の丘陵地域からトルコ国境に沿っていわゆる肥沃な三日月地帯（内陸平原地域）が広がっており、比較的恵まれた冬期の降水と夏期の高温乾燥条件の下、重要な穀倉地帯を形成している。南東部にはバディアと呼ばれる沙漠地帯（東南沙漠地域）が広がっており、国土面積の 40%以上に達している。

農業はシリアにおける基幹産業であり、農業生産物は国内消費のみならず輸出および農産加工業の原料としても重要である。シリア農業の基本問題は、降雨に依存した農業生産の極端な不安定性と灌漑施設等の農業基盤整備の立ち遅れにある。また、国内に広大な半乾燥地を抱えていることもあって、環境保全を考慮した農業開発の重要性が増している。乾燥地に特有な土壌侵食や塩類集積さらには沙漠化等の問題に対処するため、今後持続的農業の開発に力を注がなければならない。

本シリーズではシリア国における変化に富む自然を上述したように大きく4つに分け、それぞれの地域に特徴的な農業形態、そしてそこに生ずる環境問題について検討し、持続的農業の発展にとって有望と考えられる取り組みについても紹介したい。

